連合福島スポット情報

連合福島

742 号　　2024 年 7 月 3 日　発行　福島市仲間町 4-8　連合福島　組織広報局

「連合2024平和行動 in 沖縄」派遣団報告

～連合平和オキナワ集会に、全国から 900 名が結集～

語り継ぐ戦争の実相と運動の継続で恒久平和を実現しよう！

連合は、沖縄「慰霊の日」である 6 月 23 日から 24 日にかけて「2024 平和行動 in 沖縄」を現地・沖縄県で開催し、式典には全国から 900 名が参加した。連合福島からは、会津若松地区連合の寺岡議長を団長に 8 名で参加した。

23 日、「那覇文化芸術劇場なはーと」で行われた平和式典では、前泊博盛・沖縄国際大学経済学部地域環境政策学科教授の「再考・日米地位協定～〝標的の島〟からの警告：米軍、軍拡、憲法、自衛隊～」をテーマにした基調講演の後、沖縄戦で亡くなられた御霊と世界中で起きている戦争や紛争で尊い命を落とされた方々のご冥福をお祈りし、参加者全員で黙祷を行った。連合清水事務局長からは、「平和の尊さ、戦争の悲惨さを、次の世代にしっかりと語り継ぎ、二度とこのような悲劇を繰り返さないことを、固く誓い合うとともに、将来にわたって平和運動を継承し、継続していくためには、私たちが語り継いで、次の世代へと確実に繋いでいかなければならない。私たち一人ひとりが平和運動の担い手・発信者となり、この輪を一緒に広げていきましょう。」と挨拶があった。来賓あいさつの後、堀川恵・連合沖縄女性委員会委員長が平和アピール（案）を読み上げ、満場一致で採択し、集会を終了した。

連合清水事務局長からの挨拶

ピースリレー（連合沖縄から連合広島へ）

24 日は、平和研修行動として、瀬嵩の浜（辺野古）～嘉手納基地～チビチリガマ（集団自決の地）～普天間基地を望む嘉数高台公園展望台などを視察した。辺野古基地建設では周辺道路に多くの工事車両の出入りがあり、埋め立てによる海の生態系へ懸念、なにより新基地建設に対する県民との禍根は根深いと感じた。嘉手納や普天間基地の見学では、広大な敷地に米軍兵の住居や娯楽施設等も整備され、米軍基地への負担の重さと、県民の生活を脅かす騒音、河川の水質汚染、米軍機からの落下物など日常生活においても危機感を感じた。チビチリガマでは、戦時中の爆撃を逃げるための避難場所に使用された自然洞窟（ガマ）の１つで、当時の戦時教育と米軍上陸によるパニックがきっかけとなり、約８０名もの自決者が発生し、その過半数が子どもだったという悲惨な過去を振り返った。沖縄戦で命を失った全ての犠牲者に哀悼の意を捧げるとともに、恒久平和の実現に向けた平和運動継続の重要性を強く感じた。梅雨明けの猛暑の中での行動ではありましたが、寺岡団長の統率のもと参加者が協力し、成果を上げられたことに感謝申し上げます。

連合福島沖縄平和行動派遣団

辺野古建設中を背景に撮影